

「ペルオキシダーゼ」量の腫瘍組織の老成變遷(新鮮、過熟、壞死)に伴ふ消長を檢索し併せて肝、腎、筋及睾丸の「ペルオキシダーゼ」量を測定して之が消長と全生體の癌腫症性變遷經過との關係を觀察した、尙最後に第Ⅰ編から第Ⅶ編に亘る本論文を總括して 1) Baown-Pearce 系癌腫家兔の腫瘍の酵素作用、2) 癌腫家兔の肝の酵素作用、3) 癌腫家兔の腎の酵素作用、4) 癌腫家兔の筋の酵素作用、5) 癌腫家兔の睾丸の酵素作用、6) 癌腫家兔の血清の酵素作用に關して夫々實驗成績を述べてゐる。(桑原抄)

「リーケンベルグ」反應に關する知見補遺

第8編 所謂正常帶荷素に就て

高崎 澄

同 誌

正常「マウス」の血液中には血小板並に赤血球を帶荷せしむる一種の正常抗體(正常帶荷素)を相當多量に含有してゐるものと思惟する、尙かかる抗體は生れて間もない時から血中に存在するが量的には成熟「マウス」の方が遙に多い様である。(桑原抄)

腸「チフス」免疫に關する實驗的研究(Ⅲ)

大江 乙彦

同 誌

1、腸「チフス」菌「ワクチン」或は「ワクチン」上清を人體の鼻腔或は口腔より噴霧として接種する時は、使用する「ワクチン」の濃度及び回数により差異があるが2-3週以内に血液内に抗體の發現が認められる。

2、抗體產生度は使用「ワクチン」の菌量にも左右さるるが接種回数に左右さるる事遙に大である。

3、鼻腔から接種する場合は口腔から接種する場合に比して抗體產生度は大である。

4、腸「チフス」菌「ワクチン」上清を接種する場合には腸「チフス」菌「ワクチン」を接種する場合に比して抗體發現が速かて且つ強度に現れる。

5、鼻腔、口腔より腸「チフス」菌「ワクチン」及び上清を噴霧として接種しても全身的並に局

所的に何等認むべき副作用を認めない。(桑原抄)

Sarcosporidia に關する研究

蟲體毒を以て免疫せる家兔血清の補體

結合反應並に沈降反應に就て

荒瀬 恒雄

同 誌

牛を寄生主とする住肉胞子蟲體並に豚を寄生主とする住肉胞子蟲體に就き、兩者を血清學的反應に於て比較研究し即ち家兔26頭を3群に分ち各群家兔につき本蟲體の生毒「フォルマリン」處置毒及び加熱毒を夫々最小致死量以下から一定の間隔にて漸増的に注射して家兔を免疫した。該免疫血清に就て補體結合反應及沈降反應を檢するに第1群家兔では強度の反應を呈し第2群及第3群家兔では其に比し弱い。又牛系並に豚系本蟲體抗原に對する免疫家兔血清の補體結合反應並に沈降反應を比較すると豚寄生蟲體抗原並に寄生蟲體抗原の補體結合反應は略平行し又兩抗原に對する沈降反應も亦略平行する。(桑原抄)

海狸再歸熱の實驗的研究(Ⅶ)

接種直後の海狸に及ぼす免疫家兔血清の影響

小林 樵夫

同 誌

海狸に奉天系再歸熱「スピロヘーテ」を接種すると同時に同株免疫家兔血清を遞増的の量に注射し該血清が海狸體を通して接種「スピロヘーテ」に及ぼす影響を「アグロメラチオン」に依つて觀察した。(桑原抄)

腸「チフス」菌「ワクチン」による數種免疫法の研究(Ⅰ)

經皮的方法による抗體の產生に就て

齋藤 慧

皮膚科紀要 34卷 1號 昭和14年 7月

著者は諸種免疫法の比較研究に當り、抗原腸「チフス」菌「ワクチン」の皮膚糜爛面への塗布及び皮膚十字切面への塗布を施し、被験者血中の凝集素產生狀態及び副作用の有無を觀察して